

自主防災組織の必要性について

蒼生会 真崎 寿浩 議員



市長 非常に重要な地域組織であり組織率向上を強化したい

7月の豪雨災害対応について

質問 危機管理体制はどうだったか。

答弁 現在、総合防災課長と危機管理監を兼務している。総合防災課長は、総合防災課内の職務の統括を行い、危機管理監は、各部署との連携、危機管理の統括とそれぞれの職務が別れている。この二役の職務遂行は支障をきたす場面もあることから、今後、兼務ではなく単独の職務とするように検討する。

質問 初動と連絡体制についてはどうか。

答弁 豪雨前日より災害連絡室を立ち上げ、7月15日の15時には災害対策本部へ格上げし、その後の情報収集、様々な情報発信を行い、市民の避難行動へ繋がったと考える。しかし、市民への情報伝達のタイムラグについて、できる限り改善できるようオペレーションの見直しをしている。

質問 ハード面の整備についてはどうなのか。

答弁 被災した入見内川や刺市川の県管理河川については、早期河川改修事業の完成を要望し、地下道の冠水につ

いては、排水能力を超える流入量がある場合、適宜、通行止め対応をしていく。ハード面での問題を解消することで住民の安心・安全につながっていきたく考えている。

自主防災組織の必要性について

質問 災害に強いまちづくりには、隣近所で力を合わせて取り組む「共助」が重要であると考えるが、仙北市の自主防災組織の現状はどうか。

答弁 災害時には、公助がいくまで自分達の命を守って頂く「自助」「共助」が必要であると思っている。自主防災組織の令和5年現在の組織率は14.85%であり、まだまだ低い組織率であるが、7月豪雨の際は、被害情報を頂くなどとても重要な地域組織である。今年度は新たに組織化への相談もあることから、さらなる組織率向上を強化したい。

質問 熊の目撃情報が急増しているが、行政側から自主防災組織に熊の出没情報は発信されているか。

答弁 (危機管理監) 昨今、熊の出没情報が頻繁であるが、行政連絡員の連絡網に特

化した形では発信されていない。

ハザードマップについて

質問 令和3年11月に全戸に配布され、2年しか経っていないが、見直しが必要な部分はないのか伺う。

答弁 前回は、平成20年に作成し、各種の見直しが必要になり令和3年の改定に至っている。今後は、記載内容の大幅な見直しや、県からの各種の見直し情報があれば改定の検討が必要になると考えている。

質問 ハザードマップを全市民に有効に活用していただきたいという思いを強く持っているが、家庭での利活用の実

態調査等をしたことはあるか。

答弁 (危機管理監) 家庭、地域においてどのような活用がされているかという数字を出せる調査はしていないが、昨年、生保内中学校の学年登山が悪天候のため中止となり、ハザードマップを活用した防災学習を行った。生徒には学んだ内容を家庭に持ち帰って、ハザードマップを開いて、家族に話してもらおうといった活動を行っている。

また、行政連絡員会議でも要望があれば地域の集落会館等に配布するなど、現在の在庫数を有効活用しているところである。

(澤田雅亮記)



■家族の命を守るために皆で見て欲しいハザードマップ



公明党 熊谷一夫 議員

全ての庁舎を「書かない窓口」にするべきではないか

市長

積極的に情報収集し市民が利用しやすい窓口にしたい

次の世代に向けた庁舎機能の再々編について

質問 旧角館総合病院管理棟を本庁舎にする提案についてであるが、3年前に角館庁舎が完成し、西木庁舎の改修、田沢湖庁舎の耐震補強やエアコン設置などを行ったばかりであり、市民からは「ハコモノばかりでなく、市民生活向上にお金を使って。」との切実な声がある。これまでの、旧病院棟は解体して売却し、旧管理棟は、公文書センターにするとした計画はどうなったのか伺う。

回答 合併特例債を活用しての旧角館総合病院の解体と本庁舎にする旧管理棟の改修は、30年後の将来を見据えた持続可能な行政機構を構築するためである。市民の声は重く真摯に受け止め、ご理解いただいたために最大限努力する。

また、旧病院棟跡地は売却額より解体費が高いため、駐車場の確保。公文書センターは、検討委員会で見送るこ



■本庁舎の移転が提案された旧角館総合病院管理棟（3階建て）

ととした。

質問 総事業費19・6億円のうち6・6億円は次世代への借金となり、負担がさらに大きくなる。また、市の職員数も大幅に減少するのに、角館に二つの庁舎が必要なのか疑問である。さらに、議場だけを田沢湖庁舎に残す意図はどこにあるのか伺う。

回答 30年後には角館庁舎一つにまとめられると考えているが、15年後には整理・解体が必要となる田沢湖、西木庁舎を考慮すると、財政的に最も有利な手法で旧病院の解体も可能な旧管理棟への角館本庁舎移転が必要である。議

場については、事業費抑制のためだったが、現在、旧管理棟3階への設置を調整している。

各庁舎に「書かない窓口」の開設を！

質問 行政のデジタル化を進めるうえで、将来的には来庁不要の市役所を目指すべきである。

今、全国の自治体で「書かない窓口」が増えている。各種申請書の記入が不要で、市民は手続きが簡単になり、職員の事務負担軽減にも繋がるとして好評を得ているそうである。仙北市も各庁舎で「書かない窓口」を開設するべきではないか。

回答 「書かない窓口」については、昨年度熟考し、当市では、窓口に行列ができる状況が殆ど無く、費用対効果の視点から導入を見送った経緯がある。今後、他市町村の取り組みを情報収集しながら、市民が利用しやすい窓口の在り方を検討していきたい。

ICTシステムで罹災証明書交付の迅速化を！

7月中旬の大雨による

住宅被害が多かった秋田市では、支援を受けるために必要な罹災証明書の交付に数ヶ月を要している。本市の罹災証明書発行の現状と被害建物調査の現状を伺う。

また、災害時の現地調査計画の策定は万全なのか伺う。

回答 罹災証明書は11件発行した。被害建物調査は93件実施した。また、床上・床下浸水などを調査するため、家屋調査班を編成し、床上浸水世帯に見舞金を支給している。

質問 大規模な自然災害が多発している状況で、罹災証明書の迅速な発行と職員の業務の効率化を目指して、全国的にシステム化が進んでいる。損害割合算出や現地での被害度判定が自動化し、被災建物調査のばらつきも防止できる優れたもののシステムであるが、仙北市での導入の考えはないか。

回答 有効なシステムであるが、仙北市は現在の調査方法で支障はないと考えている。システムを導入している自治体の情報を収集し検討していきたい。

(高橋輝彦記)

白黒印刷の「広報せんぼく」を見やすい広報にする気はないか

日本共産党 平岡 裕子 議員



市長

必要最小限の経費で見やすい広報にするため前向きに検討したい

本庁舎移転事業と市民が望む施策について

質問 本庁舎を角館町に置くことで、物理的な距離を縮め、職員の移動時間等における時間外手当の削減や災害時等のトラブルに迅速に対応できるとしているが、果たして、本庁舎移転が解決策になるのか伺う。

答弁 現在の移動距離が大幅に短縮され、公用車の削減や燃料費、移動時間で生じる残業費用など、概算で年間約650万円以上の削減効果が見込まれる。また、職員の通勤手当が年間約300万円減少する。庁舎間の移動時間を給与換算すると、約930万円もの削減効果がある。

質問 合併特例事業債を活用しても、償還は市民の負担増ではないか。また、円安・物価高騰により事業費が膨らむのではないか。

答弁 合併特例事業債は、市の実質負担が事業費の33.5%であり、市民の負担は増えるが、今回の提案は、財政的に最も有利な手法で、課題である老朽化施設の改修や解体が可能である。昨今の物価高騰など、ある程度余裕を持

たせた事業費である。

質問 地域公共交通は、市民の意見を聞きながら計画策定に至ったが、田沢湖・角館間の移動手段として、利便性の良い交通手段を実現していく考えはないか。

答弁 田沢湖と角館間のバス路線が廃止となった影響をできるだけ抑えるため、市民バスの向生保内線たちこちゃんバスを刺巻駅まで延伸している。今後も、デマンド化による運行範囲拡大を検討するなど、市民の使い勝手の良い公共交通機関の整備に努めたい。

質問 市の財政の厳しさは、発行が月1回になり、白黒印刷となった「広報せんぼく」にも見て取れる。「月1回なら見やすいカラーにしてくれ。」との市民の声にこたえてくれないか。

答弁 来年度に向けてモノクロ2色、フルカラーなどの印刷方法や紙・インク等の価格状況を確認



■来年度にはカラー印刷復活が期待の「広報せんぼく」

し、必要最小限の経費で見やすい広報の作成を前向きに検討する。

安心して子育てできる支援を

質問 学校給食は、食育という教育の一環であり、全国的にも無償化の自治体が倍増している。仙北市も無償化にするべきではないか。

答弁 (教育長) 小・中学校の給食費の無償化には、約7,500万円の財源が必要である。国でも学校給食費無償化の具体的方策を打ち出すとしており、その動向を見極めて検討していきたい。

質問 国民健康保険税について、収入のない18歳以下は、全国的に無料化の動きが顕著である。仙北市でも6億円以

上の基金で均等割りを無料化できないか。

答弁 市の国保制度は国・県からの様々な交付金等で運営しており、市独自の軽減措置は、交付金等の減額査定対象となり、結果的に財政を悪化させ、被保険者の負担増加を招く恐れがある。基金は、今後の制度改正等での負担増の抑制に計画的に活用していく。

体育施設にエアコン設置を

質問 今年は猛暑日が続く、体育館での運動中に体調を崩す子どもたちもいたそう。小・中学校の体育会や使用頻度の高い市立体育館、武道館にエアコンを設置できないか。

答弁 仙北市内の体育館は、ほとんど断熱工が必要であり、1体育館最低でも5,000万円が必要である。小・中学校については、経年劣化の校舎が多く、学校適正配置の方向性も踏まえて検討したい。市民会館と武道館は、現状としては難しいと考えている。

(真崎 寿浩 記)



田口 寿宜 議員

頑張る子どもたちを応援する
補助制度の見直しを

教育長

市関係部局と補助制度を検討する会を立ち上げ、
何らかの形で補助する体制を整えたい

頑張る子どもたちを応援しよう

質問 市内小中学校の部活動やスポ少では、上位大会に進出する際、市から補助金が出されるが、スポ少に登録していない競技団体には何もない状況にある。市内小中学校の児童生徒であるので、公平性をもって、応援・支援する補助制度の見直しが必要ではないか。

答弁（教育長） 子どもたちの活動を支援するためにも、市関係部局と補助制度を検討する会を立ち上げ、何らかの形で補助する体制を整えていきたい。

医療について

質問 一般的な入院・治療を完結できる圏域として、現行の8医療圏から、県北、中央、県南の3医療圏に再編される。本市の医療体制に変化は出てくるのか伺う。

答弁 県の指針では、人口減少が見込まれる中で医療提供体制を確保するための再編であるとしている。紹介等に関しては症状や状態、搬送の時間を考えると当面は現状のままと考える。安心・安全な医

療体制を維持するために、地域医療連携強化が重要になってくる。

質問 医療体制を維持していくためには、二つの市立病院経営のさらなる経営改善が求められる、専門のアドバイザーの派遣を受け、「経営・財務マネジメント強化事業」を実施した結果、どのような変化が生まれてきているのか。

答弁 病院で働くすべての職種で、現状や課題、目標などを共有でき、意識改革が進んでいる。両病院の役割や機能についても意見交換をして継続的な連携ができています。

二十歳の集いについて

質問 対象となる方への周知方法について、はがきでの案内をすべきと思うが見解を伺う。

答弁（教育長） 来年の対象者で組織する実行委員会とも検討していく。

質問 当日、都合により参加できなかった方や家族の方、多くの市民の方と祝福を一緒にする上で、ライブ配信をしてはどうか。

答弁（教育長） 来年度の実行委員会の方にも話しをしていきたい。

公園の環境整備について

質問 公園は老若男女問わず憩いの場として愛される場所である。草刈りがしつかりされていない所もある。地域の方々の協力をいただいて、草刈り藪払い等の作業が必要と思うが見解を伺う。

答弁 地域の方々のご協力をいかに得るのか、得やすくできるのか検討していきたい。

質問 生保内公園の環境整備が不十分で、ステージ周りに草が生い茂っている状態を、5月と8月に見かけた。近隣の方々や、だしのこ園の子どもたちが遊びに行ったりする場面を見ている。状況を確認して整備が必要ではないか。

答弁（建設部長） 例年4月に、シールバー人材センターと公園施設維持管理業務委託契約をして、11月上



何回も訪れたい公園整備を求めたい（写真は生保内公園）

旬までゴミ拾いや草刈り・トイレ清掃など、週2・3回の頻度で作業を行っている。現場や作業の確認を随時行っていく。

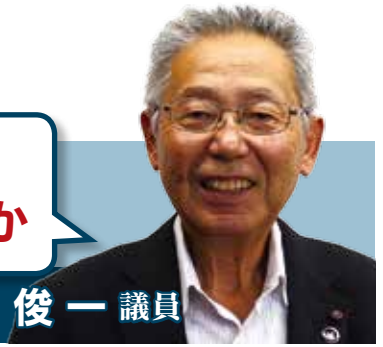
質問 仙北市公園長寿命計画の内容を伺う。

答弁 具体的には、公園施設の健全度を調査し、必要な修繕、改築の工法や時期を検討して、公園施設の長寿命化を図るものである。

（平岡裕子記）

初日の議案の取り下げは
あり得ないことではないか

荒木田 俊一 議員



副市長 私の認識が薄く、
議案を取り下げることになり申し訳ありません

仙北市の防災対応の
体制について

質問 ①7月の大雨の防災対応に問題点はなかったか。②避難指示等の情報伝達は問題なかったのか。③危機管理監が兼務で支障はなかったのか。危機管理監は、単独で配置するべきではないか。

答弁 ①下延地区への情報発信の遅れは大きな反省点であり、防災体制の見直し協議を行った。②情報収集、防災無線等の情報発信の処理に追われ、市民への迅速な情報伝達ができなかった。今後はオペレーションを見直し改善する。③危機管理監の兼務の支障は、業務が集中したことである。危機管理を統括する管理職と課長職のプレーヤーの二役の職務遂行は支障となり得るため、危機管理監の単独での職務を検討する。

農業の振興策について

質問 県でも土地利用型の稲作から園芸作物へと進めているが、本市の取り組みはどうか。また、夏秋イチゴ栽培をするストロベリーファームと結んでいる連携協定の効果は出ているのか。県主催の研修

が行われているが、農家へのバックアップ体制はどうか。

答弁 本市は、県事業の夢ある園芸産地創造事業補助金へのかさ上げや、県事業対象外の取り組みに、市単独の補助金を交付する支援を行っている。また、ストロベリーファームとの連携協定により、本市の農業振興及び雇用創出の効果がある。

今期、先行して夏イチゴ栽培に取り組んだ生産者は、標準以上の収穫量があり、全量ストロベリーファームが高単価で買い取ることから、所得向上が期待されている。

また、県主催の研修には企業の段階から参加し、栽培ハウスでの現地説明会や角館庁舎での就農勉強会などを開催し、参加農家のバックアップも行っている。

子ども議会
について

質問 子ども議会を毎年開催できないか。さらに、中高生による少年議会はできないか。また、議会で出た

課題を具体的かつ積極的に取り組む必要がないのか伺う。

答弁 (教育長) 3年に1回の開催では子どもの市政参画意識を高めていくには不足であると考えているため、毎年2回の子どもサミットを実施している。中・高生による少年議会は、高校生の負担が大きく、本市において計画することはなかったが、今後遊佐町等の情報を収集し、実現の可能性について考えたい。

また、子ども議会の提案の具現化については、非常に重要であると捉えている。市当局にも子どもサミットに参加してもらい、良い提案には、担当課で予算化し、事業の実現を図ることに賛同を得ている。



1/11開催の第4回子ども議会に
小中学校の代表24人が参加

度重なる行政事務の
ミスについて

質問 度重なる行政事務のミスに最高責任者の市長はどう思っているのか。

答弁 関係する方々にご迷惑をおかけしたことを改めてお詫び申し上げる。引継ぎ漏れや誤認、理解不足などが重なったことが原因と考えられ、職員の能力向上を図るための新たな研修等による人材育成に力を入れている。

質問 本定例会初日のいきなりの議案取り下げについて、生保内財産区が議決していないお金を、勝手に補正予算として議会に提案するなどあり得ないルールだ。財産区の管理会に出席した副市長はどのような認識なのか。

答弁 (副市長) 私の認識が薄く、議案を取り下げる運びになり、申し訳ございませんでした。

答弁 議案の取り下げという異例の対応の責任は、市当局のトップである私にあり、今後二度とこのようなことがないように再発防止に努める。

(西宮三春記)



高久昭二 議員

横町橋の欄干の取り換えができないのか

建設部長 予算の関係で、今のところは部分的な交換補修で対応する

財源確保・予算執行について

質問 財源確保、予算執行について、どのような考えを持っているのか伺う。

答弁 限られた予算で最大級の効果を求めることを大前提としており、歳出では事務事業の見直し、公営企業の健全化、人件費の抑制等による経費削減に取り組みつつ、将来の課題解決に繋がる事業に積極的に取り組んでいる。

厳しい財政状況が劇的に改善される見込みがあるとは言えず、今後も厳しい運営を強いられることが予想されるが、長期的な視野に立ち、真に必要なものにはしっかりと取り組みつつ、財政調整基金残高を確保した上で、安定した財政運営ができる状況を整え、市民生活に寄り添う、市民の立場に立った仙北市政を推進したいと考えている。

歳入では、ふるさと納税が10月の制度改正により寄付額減少の可能性があり、代替財源の確保が課題である。インバウンドも含め、交流人口の増加による、市内経済の活性化に取り組みことが企業の強化、個人の所得向上に繋がり、

市の財源確保に繋がると考えている。その他、事業実施に当たっては、国、県補助金等の財政措置を最大限活用していく。

質問 市長公用車の購入を検討しているようだが、代替公用車を使い、その分を市民生活に回すという考えはないのか伺う。

答弁 現在使用している公用車は14年を経過している。先日故障し、代替車を利用してしたが、修理し乗り続けていままっていない。

公用車の台数を減らしている状況であり、経費については圧縮していく方向で考えている。

市民サービスの向上について

質問 市民の要望や問題解決について「すぐやる課」的な部門を作っている市町村もあるが、地域センターの予算を増やし、市民のために頑張ることができないのか伺う。

答弁 (総務部長) 市民センターにスタッフを配置できれば市民の声にすぐ対応できると思うが、現実的に今はそのようなになっていない。

今年度、各市民センターに120万円の地域振興費を予算化しており、拡充という事務評価が出ているが、人事配置についてもデリケートな問題になるのでご理解いただきたい。

橋梁工事について

質問 下延大瀬蔵野橋が新設されたが、費用対効果、県道の連結等、今後の計画について伺う。

答弁 (建設部長) 費用対効果、利用状況等の調査は実施していない。架け替えにより橋梁の幅員が広がり、対面交通が可能になり、安全面で十分向上したと考えている。

県道までの連結については再検討させていただきたい。

質問 横町橋は桜の花見時期には観光スポットとして、たくさんのお客様が写真を撮られている。片側だけでも欄干を取り



■大規模改修は令和9年頃になる見込みの横町橋

換えることができないのか伺う。

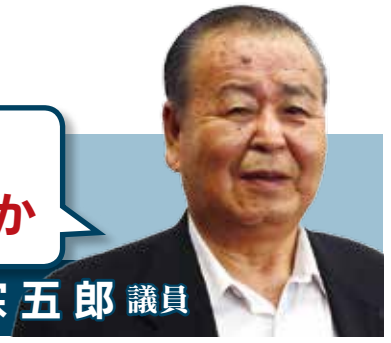
答弁 (建設部長) 高欄自体の交換だけでも多額の予算が必要になる。令和9年頃には横町橋の補修を予定しており、その時に交換する。

今のところは損傷の激しいところを数カ所確認済みなので、部分的に交換補修する形となる。

(小田島広仁記)

大雨による災害復旧について どう取り組むのか

蒼生会 青柳宗五郎 議員



市長 同じような災害が発生しないような復旧・復興に努める

7月中旬の大雨災害について

質問 大雨の被害に対して、国、県の協力を得ながら作業を進めていくと言っているが、どのように進めるのか伺う。

答弁 災害復旧についての進捗状況は、黒森橋の公共土木施設災害復旧事業を申請しており、災害査定を受けてから本格的な復旧作業を行う予定である。入見内川、刺市川など県管理河川の改修事業は、早期完成を要望していく。大沼農村公園の法面復旧工事は9月中旬頃の発注を目指し、設計積算中である。

小黒沢ため池の復旧については、10月上旬に国の災害査定を受けた後、11月上旬に工事発注して、年度内完成を目指す。市単独林道45路線については、測量設計業務を委託中で、10月中旬に工事発注し、年内完成を目指す。また、農業用施設災害復旧事業、農地・農業用施設小規模災害復旧費補助金については、補助金申請の詳細についてホームページ等で掲載予定である。しかしながら、元に戻すだけでは、同じような豪雨が来た際はまた同じ被害が起きるので、そのような状況にならないような復旧・復興をしていかなければならない。

最近の仙北市の豪雨災害を見ると、必ず入見内川という名前が出てくるので、具体的に自治体の方から、このような整備をしていただきたいというような絵を描き、地元の



■抜本的な改修が待たれる入見内川

代議士や県議の力も借りながら、そういった要望をしっかりと行っていくたい。

質問 市の災害対策等検討会議を開催し改善点を議論し、その結果を今後の災害対応に活かすとのことだが、どのように活かすのか伺う。

答弁 検討会議には、各部署から様々な改善点や検討課題が寄せられた。その中から現状ですぐに対応できる避難所の表示看板作成や備蓄品保管場所については、実施済みである。松木内小学校体育館への電話回線設置についても現在進めている。

その他の改善点については、庁内検討を重ね今後に備えていきたい。なお、備蓄品の保管場所は、西木庁舎の大型車庫に、主に食料品と避難所で使うパターション等を集約している。

質問 市内12か所の避難所について、トイレ、冷暖房、飲み水等の設備はどのようになっているのか伺う。

答弁 先日の災害対策等検討会議の中でも検証があり、クーラーが無い、トイレがまだ和式であるなど様々な環境が報告された。その中で、自分の家族がそこに避難して安

心できるのか、快適に過ごせるのか、健康を害さないで避難できるのか、などを考えて環境整備していかなければならないと感じた。

各避難所のトイレは、使用可能だが、西長野交流センターは和式で利用しづらいとの要望があり、簡易洋式便座を準備している。冷暖房機器に関しては、エアコンが設置されていない避難所や暖房機器が不足している避難所は、状況に応じて扇風機やストーブで対応することになっている。冷房機器の不足している避難所については、整備に多額の経費が必要だが、今年の猛暑の実例もあったことから、設置について検討したい。

飲み水等の設備に関しても、避難所によって使用できない箇所があることから、避難所開設後にペットボトル入りの飲料水を搬入して対応したい。7月の庁内会議でも、避難所について改善要望が出されたので、早急に改善し、避難所を利用される方々のご不便を解消していきたい。

(中村和彦記)



議員 高橋輝彦 蒼生会

最終的な庁舎の将来像を
市民に示すべきではないか

市長

最終的には角館庁舎にまとめ
田沢湖・西木庁舎は15年後に解体する

市民の命を守る取り組みについて

質問 7月15日の大雨による入見内川氾濫により下延地区に発令した最高レベル5の「緊急安全確保」が発令されたが、住民に伝えるのが40分遅れた原因が情報の錯綜とのことだが、異常時に情報が錯綜するのは当たり前のことであり、この原因は角館庁舎が完成して、新たな分庁舎体制での防災訓練を行っていないことではないか。

答弁 下延地区への情報伝達が遅れたことと、議会への説明が不足していたことをお詫び申し上げたい。

答弁（危機管理監）コロナ禍もあり2年間、大規模な訓練を行っていない。来年度に大

曲仙北地区の大規模な防災訓練が仙北市で開催されるので、有効な訓練にしたい。

質問 今年は人里でのクマの目撃件数が多く、人身被害も仙北市で過去最高の6件発生している。そこで、クマから市民の命を守るため、選りすぐりの市の職員数名に狩猟免許を取得させ、目撃情報があればすぐに出勤できる「有害鳥獣対策特殊部隊」を市役所内に結成させてはどうか。

答弁 猟友会の高齢化や減少は切実な状況であり、猟友会と相談しながら会員の確保・育成を進めていきたいと考えている。その中で、我こそはという市の職員の応募がでてくるように推奨していきたい。

質問 仙北市において、お



クマに引き裂かれたホールクロップ

盆、お祭り過ぎの新型コロナウイルスの感染が急増しているようであるが、市民の感染予防意識を高めるために、「コロナ感染警報」を発令するなどして、市民に警鐘を鳴らしてはどうか。

答弁 感染する児童、生徒も増えており学校閉鎖、学級閉鎖の措置をしている。県や大仙保健所等の関係機関とも連携し、市民の皆さまへ感染を防止するための日頃の行動を情報発信していきたい。

持続可能な仙北市にする取り組みについて

質問 旧角館総合病院管理棟に本庁舎機能を移転させることについて、田沢湖・西木庁舎をそのまま使用するとなれば維持管理コストの増加を生まないのか。

答弁 田沢湖庁舎は、1階のみの使用で2階は貸し付ける予定であり、現在の4割は削減できる。西木庁舎は、ほぼ現在のままである。通勤手当等の削減を加味すると、維持管理コストは約260万円の増加と試算しているが、増加分を縮小できるように使用方法の見直し等を随時進めていきたい。

質問 角館庁舎に隣接する健康管理センター及び角館交流センターを改修・増築などして一体的な本庁舎にすることは検討しなかったのか。

答弁 両施設ともコンスタントに活用されており庁舎にした場合、代替施設の建設と駐車場の拡張も必要になることから、財政的に難しいと判断した。その点、旧角館病院跡地の活用であれば、駐車場整備や解体にも合併特例債を充当できる大きなメリットがある。

質問 本定例会の一般質問では、この庁舎機能の再々編についての質問が多くあり、その中で市長が答弁した、田沢湖庁舎と西木庁舎は15年後には解体し、さらに人口及び市の職員数も減少する30年後には旧角館病院管理棟を改修した角館上野庁舎も解体して、現角館庁舎の一つにまとまるとした将来像を市民への説明資料にも盛り込むべきではないのか伺う。

答弁 最終的には現在の角館庁舎に統合を前提として、田沢湖庁舎、西木庁舎は15年後に解体するという絵を描いている。

（荒木田俊一記）